



Palacio Del Inka, A Luxury Collection

“インカの宮殿”という意味のパラシオ デル インカ「Palacio del Inka」は、スターウッドのラグジュアリー・コレクションのメンバーとしてクスコの重要なホテルの一翼を担っている。アトリウムになっているグランドロビーはクスコのホテル最大の面積を誇り、ブルーを基調とした内装は壮麗な雰囲気を演出し美術館に居るような感覚になる



メインダイニング「Inti Raymi」のブレイクファスト・セッティング。インカ帝国時代より受け継がれてきた“太陽の祭り”である「インティ・ライミ」の名を冠した豊穡のレストランである



「Palacio del Inka」の正面エントランス。目の前にサント・ドミンゴ教会・修道院「太陽の神殿コリカンチャ」が建ち、建物自体もコリカンチャの一部であった歴史のホテルだ



大型の絵画が背後に並び、重厚感あふれるレセプションデスク



グランドロビーに隣接して落ち着いた雰囲気を持つコンシェルジュデスク



グランドロビーの周囲はゆったりとしたソファーセットも多く配置されている



筆者 小原 康裕
 国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。
 1974年 Munich Re 入社。
 2001年投資顧問会社原健設立、
 代表取締役 CEO。
 JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント
 協会専務理事。
 SKAL International Tokyo、
 Professionnels du Tourisme 会員。
 JARC、日本宿泊施設関連協会
 アドバイザリーボードメンバー。

www.jhrca.com/worldhotel/?cat42
 www.hoteresonline.com
 https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16



「太陽の神殿コリカンチャ」と密接な関係にあるパラシオ デル インカは、インカとスペインの重厚な文化が融合した賜物と言える

Palacio del Inka, A Luxury Collection Hotel

“インカの宮殿”という意味のパラシオ デル インカ「Palacio del Inka」は、スターウッドのラグジュアリー・コレクションのメンバーとしてクスコの重要なホテルの一翼を担っている。サント・ドミンゴ教会・修道院「太陽の神殿コリカンチャ」に隣接し、建物自体もコリカンチャの一部であった歴史のホテルだ。アトリウムになっているグランドロビーはクスコのホテル最大の面積を誇り、ブルーを基調とした内装は壮麗な雰囲気を演出し美術館に居るような感覚になる。創業は1974年に「Libertador Palacio del

Inka」としてオープンしたが、2005年に全面改装され、客室もアンティークの家具を設えたクラシカルな空気が漂う。

クスコはケチュア語で“へそ”を意味し、1200年代から1532年までの間インカ帝国の首都であり、太陽神を崇拝したインカの人々にとって宇宙観の中心であった。しかし征服者のフランシスコ・ピサロが1534年にこの地に到着し、数多くのインカ帝国の修道院、寺院、宮殿などを破壊し侵略していく。スペインの入植者たちは破壊で残った壁を、新都市建設の土台として使用し多くの建造物を再建した為、インカ帝国古来の建築方法にスペインの影響が融合した建造物となった。それ故、「太陽の神殿」と密接



メインダイニング「Inti Raymi」の格調高いエントランス



石畳の中庭を見渡す気品あるメインダイニング「Inti Raymi」のブレックファースト・セッティング



メインバー「Rumi Bar」はインカ時代の石組みと文様を多く残した独特の雰囲気を感じさせる



ゆったりとしたメインバー「Rumi Bar」のラウンジコーナー



館内は古代インカの様式を多く取り入れ、石積み壁面を多く残している



朝食時、石畳の中庭ではインカの織物や物産品を即売する出店も開かれ興味深い

な関係にあるパラシオ デル インカは、双方の重厚な文化が融合した賜物と言える。

パラシオ デル インカはラグジュアリー・コレクションのブランドとして全 203 部屋を擁して 2013 年 8 月にオープンした。今回は約 70㎡の広さで酸素供給システムを備えたスイート「Palace Suite one King」をご紹介したい。「Pillpa」"バタフライ"という意味の名を付けられたスイートで、その名の通り天井は独自の骨組みと蝶の文様で飾られている。メインダイニング「Inti Raymi」は、インカ帝国時代より受け継がれてきた「太陽の祭り」である「インティ・ライミ」の名を冠した豊穡のレストラン

だ。館内は古代インカの様式を多く取り入れ、とくにメインバー「Rumi Bar」はインカ時代の石組みと文様を多く残した独特の雰囲気を感じさせる。

パラシオ デル インカの最大の特徴は隣接して建つ「太陽の神殿コリカンチャ」との一体性であろう。征服者フランシスコ・ピサロが邸宅として建てた建物を改装しホテルとして運営しているという歴史の皮肉でもある。朝食時、石畳の中庭ではインカの織物や物産品を即売する出店も開かれ興味深い。インカの面影が残るこのパラシオに滞在し、歴史の光と影を紐解くのも一興であろう。



約 70㎡の広さで酸素供給システムを備えたスイート「Palace Suite one King」のベッドルーム。インカ時代の邸宅の壁面に多く使われた赤銅色の塗料が鮮やかに蘇る



「Palace Suite one King」のリビングルーム



リビングルームは広い面積を確保し、年代物で大型の両開き扉が印象的だ



「Pillpa」"バタフライ"という意味の名を付けられたスイートで、その名の通り天井は独自の骨組みと蝶の文様で飾られている



中庭を取り囲むインカ時代の趣ある回廊